

カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入者名	
記入年月日	2013年7月31日
学部・研究科名	共同獣医学部
学科・専攻等名	獣医学科
コース等名	

学部・研究科の教育目的(具体的に記述・箇条書き)		学科・専攻科等の教育目的(具体的に記述・箇条書き)					
国際水準の獣医学教育を体系的に創出・実践するとともに、学際協力により深い知識と高度な技術を備えた専門性の高い獣医師を養成する。幅広い見識と倫理観を持って人間社会の質的向上に貢献できる能力を培い、問題解決能力と自己資質を向上させる能力を涵養することで、地域に根ざすと同時に社会ニーズに対応した、人間地球社会を俯瞰できる人材を輩出する。		(同左)					
学科・研究科等のカリキュラム		学科・研究科等のGraduation Policy(GP) (◎=GP達成のために、特に重要な事項、○=GP達成のために、重要な事項、△=GP達成のために、望ましい事項)					
授業科目名	授業科目の主題(箇条書き) (この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書きに記入する。)	授業科目の到達目標(箇条書き) (この授業科目の学習後に到達すべき最低限の(行動)目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書きに記入する。)	1. 豊かな人間性と獣医師としての正しい倫理観を持ち、行動規範に従い職務を遂行できる。	2. 獣医学を基礎とした動物生命科学研究を実践するための探究心と問題解決能力を備えている。	3. 動物感染症とその脅威を理解し、制圧のための基礎知識と技術を習得している。	4. 高度な動物医療を適切に実践する知識と技術を習得している。	5. 畜産資源の安定供給と安全性確保に関する基礎知識と技術を習得している。
獣医学概論A,B	1 獣医師の社会的役割や責務について学ぶとともに、獣医師が活躍する様々な分野について見識を深める。 2 獣医学の歴史を学ぶとともに最先端の基礎研究や獣医臨床に触れ、今後の学習や将来のためのモチベーションとする。	知識・理解の観点:広い職域で活躍機会をもつ獣医師という職業を知り、大学で受ける講義や実習の学習意義を把握する。 思考・判断の観点:動物や人との多様な繋がりの中で活躍する獣医師の社会的責務を理解する。 関心・意欲の観点:生命との関わりが多様性を知り、進路選択に活かす。 態度の観点:生命倫理について理解する。 その他の観点:獣医師の社会的活躍の場を理解し、自身の進路について考える機会をもつ。	◎	○			
獣医キャリア形成論	1 獣医師への社会的ニーズの変化に伴い、その職域の多様性は大きく拡大した。さまざまな分野で活躍する獣医師を講師として招き、現代社会が求める獣医師の役割について学ぶ。 2 獣医師のさまざまな職域と国際社会との関わりは深い。なぜ国際性をもつ獣医師が現代社会に求められているのかを講義を通して理解する。	知識・理解の観点:広い職域で活躍機会をもつ獣医師という職業を知り、その社会的役割を理解する。 思考・判断の観点:社会と獣医師との関わりについて考える。 関心・意欲の観点:獣医師の職域の多様性を理解する。 態度の観点:生命倫理と獣医師の社会的責務について理解する。 その他の観点:獣医師の社会的活躍の場を理解し、自身の進路について考える。	◎				
獣医倫理学	1. 獣医倫理・動物福祉の考え方を総合的に理解する。 2. 倫理性の豊かな獣医師として獣医倫理を実践に応用できる資質を身につける。 3. 獣医学及び獣医療に対する自らの価値観や文化を見直す柔軟な思考を涵養し、グローバルな視点を認識する。	知識・理解の観点:動物に対する価値観や文化について学習し、利益が相反する場合に発生する種々の問題を理解する。 思考・判断の観点:獣医師としての倫理観養成のために、臨床で出会う「困難」、動物病院などにおいて直面する「価値の違い」などの解決法について理解を深める。 態度の観点:討論やロールプレイングなどの講義に積極的に参加し自身の意見を発することができる。	◎				
獣医法規	1 獣医師として熟知しておくべき法律と行政について理解をさせる。 2 前半は畜産関連法規について、後半は公衆衛生関連法規について解説する。	知識・理解の観点:獣医畜産関係の主要法規を説明できる。 思考・判断の観点:主要法規の基本理念と獣医師の役割について述べるができる。 関心・意欲の観点:獣医師としての社会的な役割に関心を持つことができる。 態度の観点:授業へ積極的に参加している。	◎		△		○
獣医解剖学A	1 馬、牛、豚、犬及び猫の体の部位名称等の用語と基礎的な解剖学的基礎知識を説明する。 2 骨の構造について概説し、軸性骨格及び前肢・後肢骨格の講義を行う。 3 骨格と靭帯の構造を説明し、関節についての講義を行う。 4 また、筋の種類・構造・補助装置などの総論的な解説を行い、頭部・体幹の筋についての講義を行う。	知識・理解の観点:動物体の基本的構造、特に部位名称と体位の方向、骨学、関節学及び筋学の一部を理解する。 思考・判断の観点:動物体の基本的構造、特に部位名称と体位の方向、骨学、関節学及び筋学の一部を考えさせる。 関心・意欲の観点:動物の多様性に興味を持たせる。 態度の観点:生命・いのちに対する畏敬の念を育む。		◎			○
獣医解剖学B	1 獣医・畜産学で取り扱う哺乳類・鳥類を中心として、動物の生体の基本的構造を理解し、解剖学の基礎知識を習得することを目標とする。 2 筋学と内臓学の一部に関して系統および局所解剖学的に解説する。特に、その相互の関連性および種差に関して比較解剖学的に解説する。その際、野生動物についても比較する。	知識・理解の観点:動物の生体の基本的構造、特に筋学と内臓学の一部に関して理解する。 思考・判断の観点:動物の生体の基本的構造、特に筋学と内臓学の一部に関して考えさせる。 関心・意欲の観点:動物の多様性に興味を持たせる。 態度の観点:生命・いのちに対する畏敬の念を育む。	○	◎			
獣医解剖学C	1 泌尿器に関して、腎臓の基本構造と動物種による違い、尿道の走行などについて説明する。 2 生殖器については、基礎構造と特徴だけでなく、子宮・前立腺などにおける動物種差などについても言及する。 3 さらに、リンパ系(胸腺・リンパ節・脾臓)、内分泌系(下垂体・甲状腺・副腎・膵臓)及び視覚・聴覚・嗅覚などの感覚器系担当臓器の基本構造と特徴を説明する。 4 外皮に関しては皮膚・乳腺・蹄などの基本構造を説明する。	知識・理解の観点:動物体の基本的構造、特に泌尿器、生殖器、リンパ系器官、内分泌器、感覚器及び外皮を理解する。 思考・判断の観点:動物体の基本的構造、特に泌尿器、生殖器、リンパ系器官、内分泌器、感覚器及び外皮を考えさせる。 関心・意欲の観点:動物の多様性に興味を持たせる。 態度の観点:生命・いのちに対する畏敬の念を育む。		◎			○

獣医解剖学D	1 獣医・畜産学で取り扱う哺乳類・鳥類を中心として、動物の生体の基本的構造を理解し、解剖学の基礎知識を習得することを目標とする。 2 獣医解剖学Dでは、脈管ならびに神経学を中心として、系統および局所解剖学的に解説する。また、家禽の解剖学を解説する。	知識・理解の観点:動物の生体の基本的構造、特に脈管ならびに神経学、また家禽の解剖学を理解する。 思考・判断の観点:動物の生体の基本的構造、特に脈管ならびに神経学、また家禽の解剖学を考えさせる。 関心・意欲の観点:動物の多様性に興味を持たせる。 態度の観点:生命・いのちに対する畏敬の念を育む。	○	◎				
獣医解剖学実習A,B	1 獣医・畜産学で取り扱う哺乳類・鳥類を中心として、動物の生体の基本的構造、解剖学の基礎知識を自らの手で習得することを目標とする。 2 骨学・筋学・内臓学・脈管学・神経学に関して系統および局所解剖学的に実習を行う。	知識・理解の観点:獣医・畜産学で取り扱う哺乳類・鳥類を中心として、動物の生体の基本的構造、解剖学の基礎知識(骨学・筋学・内臓学・脈管学・神経学)を自らの手で理解し、習得する。 思考・判断の観点:獣医・畜産学で取り扱う哺乳類・鳥類を中心として、動物の生体の基本的構造、解剖学の基礎知識(骨学・筋学・内臓学・脈管学・神経学)を考えさせる。 関心・意欲の観点:動物の基本的構造に関する多様性に興味を持たせる。 態度の観点:生命・いのちに対する畏敬の念を育む。	○	◎				
獣医組織学A	1 家畜・家禽の構造に関する組織学的な専門用語を学ぶ。 2 組織標本の作成方法と原理を理解する。 3 家畜・家禽の総論的な組織構造に関して、細胞の構造、上皮組織、結合組織の特性について学習する。	知識・理解の観点:動物の組織構造、特に細胞、上皮組織、結合組織を理解する。 思考・判断の観点:動物の組織構造、特に細胞、上皮組織、結合組織の特徴を把握し、立体構造を構築できる。 関心・意欲の観点:動物組織の共通性と多様性に興味を持たせる。 態度の観点:動物の体を理解するための真摯な態度を育む。	○	◎				
獣医組織学B	1 軟骨・骨の構造と骨発生のメカニズムなどについて講義を行う。 2 筋組織の種類・基本構造、また神経細胞組織の基本構造、神経膠細胞の機能と分布、中枢・末梢における神経組織の構造について講義を行う。 3 血液細胞についても、その種類・形態・機能について講義し、造血のメカニズムを解説する。 4 脈管及びリンパ組織の基本構造と機能について講義する。	知識・理解の観点:動物体の組織構造、特に骨・軟骨、筋、血液細胞、脈管及びリンパ組織を理解する。 思考・判断の観点:動物体の組織構造、特に骨・軟骨、筋、血液細胞、脈管及びリンパ組織からその機能と立体構造を構築できる。 関心・意欲の観点:動物組織の共通性と多様性に興味を持たせる。 態度の観点:生命の神秘に対する畏敬の念を育む。		◎	○			
獣医組織学C	1 家畜・家禽の組織学的特性の動物種差について理解する。 2 家畜・家禽の各論的な組織構造に関して、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、胎盤について学習する。	知識・理解の観点:動物の組織構造、特に消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、胎盤を理解する。 思考・判断の観点:動物の組織構造、特に消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、胎盤の特徴を把握し、立体構造を構築できる。 関心・意欲の観点:動物組織の共通性と多様性に興味を持たせる。 態度の観点:動物の体を理解するための真摯な態度を育む。	○	◎				
獣医組織学D	1 視覚・聴覚・味覚・嗅覚系に関する感覚器系の組織構造について講義を行う。 2 各内分泌器系の組織構造の特徴と機能について講義を行う。 3 外皮の組織学的特徴に関して説明を行う。 4 家禽の主な器官の組織構造について講義する。	知識・理解の観点:動物体の組織構造、特に感覚器、内分泌器、外皮及び家禽の主要器官を理解する。 思考・判断の観点:動物体の組織構造、特に感覚器、内分泌器、外皮及び家禽の主要器官からその機能と立体構造を構築できる。 関心・意欲の観点:動物組織の共通性と多様性に興味を持たせる。 態度の観点:生命の神秘に対する畏敬の念を育む。		◎	○			
獣医組織学実習A	1 家畜・家禽の総論的な組織構造の理解 2 器官などの高次構造との関連性 3 組織標本の作成方法および観察方法の理解 4 顕微鏡の使用法の習得	知識・理解の観点:マイクロ構造を理解するにあたり、専門用語と基礎知識を理解する。 組織標本の作成方法および顕微鏡の使用法について習得する。 思考・判断の観点:細胞の種類を認知することができ、上皮組織、結合組織、支持組織、筋組織、血液・骨髄、脈管、リンパ組織の3次元構造について理解できるようになる。	○	◎				
獣医組織学実習B	1 家畜・家禽の各論的な組織構造の理解 2 器官などの高次構造との関連性 3 生理機能との関連性 4 顕微鏡の使用法の習得 5 各動物の組織構造の種間差の理解	知識・理解の観点:細胞の構造、組織の構造、器官形成の基礎知識を理解する。顕微鏡の使用法を習得する。 思考・判断の観点:消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、胎盤、内分泌系、感覚器系、外皮、家禽の組織、胎子組織について特徴を把握し、三次元構造を理解できるようになる。		◎	○			
獣医生理学A	1,移動運動を中心に動物の機能を個体、集団として理解する。	知識・理解の観点:専門用語を適切に使用し、生体現象の発現メカニズムについて説明できる 思考・判断の観点:生体現象発現メカニズムの解明の過程(プロセス)、問題点を指摘できる 関心・意欲の観点:積極的な講義への参加が望まれる 態度の観点:受講生としての当たり前の受講態度を求める 技能・表現の観点:簡潔に、他者に説明できる能力を身につける	○	◎	△	△	△	
獣医生理学B	1 生体機能のうち、感覚、内分泌、代謝と体温調節、血液、腎臓、生殖の各機能ごとに知識を整理し、その総体としての生命現象を統合的に捉える知識と考え方を身に付ける。 2 獣医学が対象とする様々な動物種に固有の生理機能について理解する	知識・理解の観点:生体恒常性維持の概念を念頭に置き、個体の生命現象を分子レベルから個体レベルまでの生理機能の総体として統合的に捉える知識と考え方を身に付ける。 思考・判断の観点:生きていること(死んでいること)を科学的な観点から考察することで、最終的には生命現象を社会的な視野からも思考できるようにする。 関心・意欲の観点:獣医生理学が、多様な専門科目を包括する獣医学の基幹をなしていることを理解する。 態度の観点:限られた時間内に限られた内容にしか言及できない講義が自己学習への道標であることを理解し、日進月歩の科学的知見を常に吸収し続ける学習態度を身に付ける。 その他の観点:生理学の知識や考え方に基づき、科学技術の発展に伴い変化していく生命科学の倫理学を考えていく姿勢を涵養する。	○	◎	○	○	○	

獣医生理学実習	1 獣医生理学A及び獣医生理学Bの講義で学んだ内容をより深く理解して確認することを目指す。 2 神経・筋、呼吸・循環、消化・代謝、内分泌に関する知識と技術を身につける。	知識・理解の観点: 専門用語を適切に使用し、生体現象の発現メカニズムについて説明できる 思考・判断の観点: 生体現象発現メカニズムの解明の過程(プロセス)、問題点を指摘できる 関心・意欲の観点: 積極的な実習への参加が望まれる 態度の観点: 受講生としての当たり前の受講態度を求める その他の観点: 簡潔に、他者に説明できる能力を身につける	△	◎	△	△	△
生化学 I	1 生化学は、生命の働きと営みを化学物質の流れから解明する学問である。 2 本講義では、生体内における代謝のしくみと役割を習得する上で必要な生体物質の構造と機能について中心的に学習する。	知識・理解の観点: 基本的な生体物質の構造と機能を説明出来る。 思考・判断の観点: 特定の生命現象の背後にある生体物質を指摘出来る。 関心・意欲の観点: さまざまな生命現象に対して、生体物質のレベルで説明することの重要性に配慮出来る。 技能・表現の観点: 基本的な生体物質、反応は適切なtechnical term を用いて、口答および文章で表現出来る。		◎			
生化学 II	1 糖質・脂質・アミノ酸の異化と合成、さらにそれらの統合による生体維持のメカニズムについて 2 生体を維持するために組織間における代謝のかかわり、その調節について	知識・理解の観点: 糖質・脂質・アミノ酸の代謝を説明できる。 思考・判断の観点: 動物の栄養状態に置ける代謝の変化を理解できる。 関心・意欲の観点: 疾病の原因となりえる代謝異常に関心もてる。 態度の観点: 積極的に講義に参加する。	○	◎		△	
生化学実習	1 タンパク質、酵素、DNAという生体を構成する基本的な成分に関しての知識を深める。 2 それらに関して生化学的な扱い方の基礎的な技術を身につける。	知識・理解の観点: 各テーマの実験の原理について説明出来る。 思考・判断の観点: 生命科学における生化学的方法論を実感する。 関心・意欲の観点: 生化学的方法に興味を抱く。 技能・表現の観点: マイクロピペット操作をはじめとする基礎的技術に習熟する。 その他の観点: チームワークで実験結果をまとめていく創意工夫をおこなう。		◎			
動物遺伝学	1 家畜における、諸形質の遺伝現象を解説し、遺伝の仕組みについて、集団レベル、個体レベル、細胞レベル、分子レベルでの理解を深めることを目標とする 2 遺伝形質の捉えかたを、形態、代謝、分子多型の面から解説し、家畜のゲノム解析への理解を深める。さらに遺伝学の応用としての育種学についても触れる。	知識・理解の観点: 動物における諸形質の遺伝現象を解説し、遺伝の仕組みについて理解する。 思考・判断の観点: 動物における諸形質の遺伝現象を解説し、遺伝の仕組みについて考えさせる。 関心・意欲の観点: 動物の遺伝形質の捉えかたとゲノム解析に興味を持たせる。 態度の観点: 生命・いのちに対する畏敬の念を育む。	○	◎			
動物行動学	1 本講義では、種を超えて存在する共通の行動様式や行動発現の理解に必要な基礎的知識(行動の系統発生や個体発生、行動を制御する神経系)だけでなく、動物種の相違を念頭に置いて、コミュニケーション行動や生殖行動、社会的行動、維持行動を講義する。 2 最後に学習理論と動物行動学の研究と臨床応用に言及する。	知識・理解の観点: 行動の発現メカニズムについて説明できる。行動の進化基盤について説明できる。 思考・判断の観点: 動物の行動を評価する方法を知り、利用できる。 関心・意欲の観点: さまざまな動物の行動に興味をもち、行動学的に説明できる。 態度の観点: さまざまな動物の行動が遺伝子レベル、生理レベル、社会レベル、生態系レベル、進化レベルで表現できることを理解する。	◎	○			
獣医発生学	1 発生中の胚、さらには胎子における細胞、組織及び器官の起源、発生、分化並びに成熟について教授する。 2 組織や器官の最終形態や相互関係を理解させ、発生過程を統御する諸因子に関して教授する。 3 初期発生、胎子発生、器官発生に分けて教授する。・初期発生において、細胞分裂、生殖系発生、受精、卵割、原腸胚形成を説明し、胎子発生では、シグナル伝達、体の基本的構造の成立、胎膜と胎盤形成を取扱い、器官発生では各臓器別の発生学的局面を教授する。	知識・理解の観点: 動物の発生学全般について理解する。 思考・判断の観点: 獣医学に必要な科学的思考を涵養する。 関心・意欲の観点: 幅広く生命の成り立ちに興味を持つようにする。 態度の観点: 学問に真摯に取り組む姿勢を身につける。 その他の観点: 基礎・臨床に応用可能な知識を習得する。	○	◎	○	○	◎
獣医薬理学A	1. 獣医学が対象とする薬物の作用を理解するために、薬の作用機構と有害作用、体内動態など薬理学総論について解説する。 2. 医薬品適正利用のための情報の取り扱い方、医薬品開発の方法、動物実験の基本姿勢と倫理について解説する。 3. 末梢神経に対する薬の作用機序、臨床応用、動物種差について解説する。	知識・理解の観点: 薬の基本的な作用機構とその代謝を理解し、各論で学ぶ薬物の理解へとつなぐことができる。 思考・判断の観点: 薬の作用機構や代謝について、生理学や生化学の知識を基に理解できる。 関心・意欲の観点: 応用・臨床科目との関連に関心をもち、新薬や薬害などについても興味を持って調べることができる。 その他の観点: 医薬品の開発における動物の取扱いから、動物福祉と倫理について考えることができる。		◎		○	
獣医薬理学B	1. 中枢神経に対する薬の作用機序、臨床応用、動物種差について解説する。 2. 疾患に伴う炎症の発症機構とオータコイドの役割、抗炎症薬の作用機序、副作用、臨床応用を解説する。	知識・理解の観点: 中枢神経に作用する薬、炎症の発生と抗炎症薬、およびそれらの薬物の作用機構、副作用、臨床応用について理解し、説明できる。 関心・意欲の観点: 身近な薬について関心を持ち、それらの作用について興味を持って調べることができる。 その他の観点: 臨床現場で利用する薬の作用機構について理解する。		◎		○	

獣医薬理学C	1. 動物の循環器疾患, 呼吸器疾患, 消化器疾患とそれらの代表的な薬の作用機序, 副作用, 臨床応用を解説する。 2. 生体の塩類代謝とそれに付随する腎疾患, 並びに代表的な薬の作用機序, 副作用, 臨床応用を解説する。 3. 動物の免疫機能とがんの発生, 並びにそれらの代表的な薬の作用機序, 副作用, 臨床応用を解説する。	知識・理解の観点: 循環器疾患, 呼吸器疾患, 腎疾患, 免疫異常, がんの発症に関して理解し, 適切な治療薬およびそれらの作用機序, 副作用, 臨床応用について理解し, 説明できる。 関心・意欲の観点: 身近な薬について関心を持ち, それらの作用について興味を持って調べることができる。 その他の観点: 臨床現場で利用する薬の作用機序について理解する。	◎		○		
獣医薬理学D	1. 動物の血液疾患, 内分泌疾患, 消化器疾患, 中毒とそれらの代表的な薬の作用機序, 副作用, 臨床応用を解説する。 2. 駆虫薬, 殺虫薬の作用機序, 副作用, それらの適用を解説する。	知識・理解の観点: 血液疾患, 内分泌疾患, 消化器疾患, 中毒に関して理解し, 適切な治療薬およびそれらの作用機序, 副作用, 臨床応用について理解し説明できる。また, 駆虫薬, 殺虫薬について概説できる。 思考・判断の観点: 薬の作用機序や代謝について, 生理学や生化学の知識を基に理解できる。 関心・意欲の観点: 身近な薬について関心を持ち, それらの作用について興味を持って調べることができる。	◎		○		
獣医薬理学実習	1. 動物の取扱い, 薬物投与, 人工栄養液, 生体における薬物動態とそれに関与する要因について実験を通して学ぶ。 2. 個体または摘出臓器を用いることで, 薬の反応とその作用機序について実験を通して学習する。	知識・理解の観点: 獣医学が対象とする代表的な治療薬の反応と作用機序を実験を通じて理解する。 思考・判断の観点: 得られた実験結果をもとに, 薬の反応を多角的に考察する事ができる。 態度の観点: 興味を持って実験に参加し, 自ら考えながら作業を行う事ができる。 その他の観点: 動物の福祉と倫理について理解する。	◎		○		
免疫学 I	1 免疫系という高度に複雑な生命システムの全体像を理解する。 2 そのために自然免疫の原理と適応免疫との関わりをまず理解する。 3 さらに抗原認識機構の理解を通じて, 獣医学でとくに重要な感染免疫の基礎を学ぶ。	知識・理解の観点: 免疫系システムの基本を統合的に理解できる。 思考・判断の観点: 自然免疫と適応免疫の違いについて説明できる。 関心・意欲の観点: 免疫システムの本質, 特に感染防御という現象に興味を持たせるようにする。 態度の観点: 免疫学を通じて免疫システムが抱える数多くの謎にチャレンジしようとする意欲を促す。 技能・表現の観点: 授業中の 疑問点を明らかにし, 積極的に質問を投げかけられるような雰囲気を作り出す。	◎		○		
免疫学 II	1 免疫学という高度に複雑な生命システムの全体像を理解する。 2 免疫学Iで習得した基礎知識をもとに, 侵入した病原体を除去する仕組みを解説する。 3 また, 免疫系が破綻することによってもたらされる病態について理解する。	知識・理解の観点: 免疫系についての各知識を繋げ, 全体像を説明できる。 思考・判断の観点: 免疫学Iで習得した知識を応用し, 感染防御メカニズムについて説明できる。 関心・意欲の観点: 自主的に学習し, 自分の言葉で免疫系を説明することができる。 態度の観点: 免疫学は生命科学に関わる者にとってはたしなみであるということを理解し, 興味をもって講義に臨む。 技能・表現の観点: 疑問点を明らかにし, 必要であれば講師に適切な質問を投げかけることができる。	○		○		○
実験動物学A	1 獣医学教育及び生命科学研究に大きな役割を果たしている実験動物並びに動物実験の必要性を説明する。 2 実験動物の使用に当たっての基礎知識と適正な動物実験について比較生物学的観点から概説する。	知識・理解の観点: 国家試験の出題科目に答えられるか。 思考・判断の観点: 基礎科目との関連で理解しているか。 関心・意欲の観点: 疑問点について質問するか。 態度の観点: 講義に積極的に出席しているか。	◎		△		
実験動物学B	1. 獣医学教育及び生命科学研究に大きな役割を果たしている実験動物並びに動物実験の必要性を説明し, 実験動物の使用に当たっての基礎知識と適正な動物実験について比較生物学的観点から概説する。 2. 実験動物の感染症の影響と対策, 実験動物の主な感染症(細菌, ウイルス病, 寄生虫感染症), 動物実験と人獣共通感染症, バイオハザード, 発生工学, 動物実験代替法, 適正な動物実験と動物実験技術について概説する。 3. 以上のことから獣医師一人としての動物愛護, 動物福祉等に関する知識を深め, 高度な見識と倫理観を養成する。	知識・理解の観点: 国家試験の出題に答えられるか。 思考・判断の観点: 基礎・応用・臨床各科目との関連で理解しているか。 関心・意欲の観点: 疑問点について質問するか。 自分自身の倫理観を構成できたか。 態度の観点: 講義に積極的に出席しているか。	◎	◎	◎		◎
実験動物学実習	1. 適正な動物実験を行うために必要な実験動物の飼育管理法, 実験環境コントロール, 保定・麻酔・採血法, 安楽死及び病理解剖などについて実習を通じて学ぶ。 2. 動物実験施設を訪問して実地見学を行うことで見識を広める。	知識・理解の観点: 講義で習得した知識を生かしているか。 思考・判断の観点: 観察によって異常, 病変を把握できるか。 関心・意欲の観点: 疑問点について質問したか。 態度の観点: 実習に積極的に参加しているか。 技能・表現の観点: 動物を扱う上で手技は上達したか。	◎	◎	◎		○
獣医微生物学 I	1. 微生物(ウイルス, 細菌, 真菌, 原虫など)に関し, 発見の歴史, 基本構造, 生物学的, 物理化学的, 血清学的及び遺伝学的性状等について理解する。 2. 分類, さらには分離, 同定, 培養, 保存と消毒, 滅菌などその取扱い方法に関する基本的事項について学ぶ。 3. 微生物の増殖様式, 病原性因子及び変異や耐性獲得様式についても理解する。	知識・理解の観点: 病原微生物の基本的性状を説明できる。 思考・判断の観点: 習得した知識を応用し, 病原微生物の全体像について概説できる。 関心・意欲の観点: 病原微生物の問題点を説明できる。 態度の観点: 病原微生物の現状を把握することができる。 技能・表現の観点: 疑問点を明らかにし, 必要であれば講師に適切な質問を投げかけることができる。		◎	◎	○	◎

獣医微生物学IIA	1. 細菌, 真菌, 原虫の個々の微生物に関し, その分類学的位置, 生物学的, 物理化学的, 血清学的, 及び遺伝学的性状に関して理解する。 2. 分離, 同定, 培養, 保存など, その取扱い方法について学ぶ。 3. 自然界における分布状況と宿主動物が感染した場合の疾病名とその疾病の概要について学ぶ。	知識・理解の観点: 各種細菌, 真菌, 原虫の性状を説明できる。 思考・判断の観点: 習得した知識を応用し, 各種細菌, 真菌, 原虫感染症について説明できる。 関心・意欲の観点: 各種細菌, 真菌, 原虫感染症の問題点を説明できる。 態度の観点: 各種細菌, 真菌, 原虫感染症の現状を把握できる。 技能・表現の観点: 疑問点を明らかにし, 必要であれば講師に適切な質問を投げかけることができる。		◎	◎	○	◎
獣医微生物学IIB	1. ウイルスにおける分類学的位置, 生物学的, 物理化学的, 血清学的, 及び遺伝学的性状に関して理解する。 2. 分離, 同定, 培養, 保存等の取扱い方法について学ぶ。 3. 自然界における分布状況と宿主動物が感染した場合の疾病名とその疾病の概要について学ぶ。	知識・理解の観点: 各種ウイルスの性状を説明できる。 思考・判断の観点: 習得した知識を応用し, 各種ウイルス感染症について説明できる。 関心・意欲の観点: 各種ウイルス感染症の問題点を説明できる。 態度の観点: 各種ウイルス感染症の現状を把握できる。 技能・表現の観点: 疑問点を明らかにし, 必要であれば講師に適切な質問を投げかけることができる。		◎	◎	○	◎
獣医微生物学実習A	1. 病原性細菌について, その分離, 培養, 同定及び取扱い方法, 無菌操作について学ぶ。 2. 病原性の強い細菌や数多くの微生物は実習では取り扱えないため, 低病原性の微生物を使用しながら, 菌の特性などを体験的に学ぶ。 3. 培養のための増菌, 選択, 感受性試験培地などの作製, 分離菌のクローニング, 血清反応(凝集試験)等も経験し, その原理と意義を学ぶ。	知識・理解の観点: 獣医学において基本的な概念である病原微生物(細菌)の取り扱い法, 診断法を学ぶ。 思考・判断の観点: 細菌感染症に対して, 正しく診断し, 予防・治療できる思考力を高める。 態度の観点: 積極的な議論や討論を通して微生物免疫学を理解する。		○	◎	○	◎
獣医微生物学実習B	1. 動物に感染する病原性ウイルスについて, その分離, 培養, 同定及び取扱い方法について学ぶ。 2. ウイルスを培養するための, 発育鶏卵の取扱いや初代培養細胞或いは株化細胞の培養方法を習得しながら, 生ワクチン用の弱毒ウイルスなどを用いて, ウイルス培養の実技を学ぶ。 3. また, ウイルスの同定或いは感染診断のための血清反応についても経験し, その原理と意義について学ぶ。	知識・理解の観点: 獣医学において基本的な概念である病原微生物(ウイルス)の取り扱い法, 診断法を学ぶ。 思考・判断の観点: ウイルス感染症に対して, 正しく診断し, 予防・治療できる思考力を高める。 態度の観点: 積極的な議論や討論を通して微生物免疫学を理解する。		○	◎	○	◎
獣医病理学A	1 受身の病変および活動的病変の成り立ちを理解させる。 2 循環障害についての成り立ちを理解させる。 3 免疫病理および炎症についての成り立ちを理解させる。	疾病による動物の臓器や組織に見られる変化とその原因を理解することが目標である。 知識・理解の観点: 循環病変, 炎症等の各知識を繋げ, 全体像を説明できる。 思考・判断の観点: 習得した知識を応用し, 病態発生メカニズムについて説明できる。 関心・意欲の観点: 自主的に学習し, 各所見と疾患の定義を説明することができる。 態度の観点: 各疾患と個々の形態学的繋げる。 技能・表現の観点: 疑問点を明らかにし, 必要であれば講師に適切な質問を投げかけることができる。	○	◎	◎	○	◎
獣医病理学B	1 各種動物に発生する腫瘍に関して概説し, 腫瘍発生の原因, 転移, 種類等を講義する。 2 先天異常や奇形との対比, 分子病理学的手法の解説, 薬物発癌等に関連した毒性病理学の基礎とその応用についても講義する。 3 各種動物の臓器別の病変については, 心臓や血管等の循環器系, リンパ節や脾臓等の造血器系, 鼻腔や肺等の呼吸器系について, 変性, 炎症, 腫瘍等について講義する。	知識・理解の観点: 疾病による動物の臓器や組織にみられる変化を理解している。 思考・判断の観点: 疾病の原因を病理学的に考える。 関心・意欲の観点: 病変の成り立ちに関心がある。 態度の観点: 授業に積極的に参加する。		○	◎		◎
獣医病理学C	1 各種動物において, 消化管, 肝臓, 膵臓等の消化器系, 腎臓, 尿管, 膀胱, 尿道等の泌尿器系, さらに精巣, 子宮, 卵巣, 乳腺等の雌雄生殖器系の各臓器における奇形, 変性, 循環障害, 壊死, 炎症, 腫瘍等について講義する。 2 また, それぞれの疾病の原因, 病態, 治療を概説して疾病の全体像を捉えることができるようにする。	知識・理解の観点: 各種動物の消化器系, 泌尿器系, 生殖器系の疾病の病態を理解する。 思考・判断の観点: 各種動物の消化器系, 泌尿器系, 生殖器系の疾病の原因・成り立ちを理解する。 関心・意欲の観点: 各種動物の消化器系, 泌尿器系, 生殖器系の疾病の基礎科目や臨床・治療との関連に関心をもつ。 態度の観点: 受講および予習・復習に積極的に取り組む。		◎	△		
獣医病理学D	1. 骨・筋等の運動器系の疾病の原因, 病態の理解 2. 皮膚等の外皮の疾病の原因, 病態の理解 3. 脳, 末梢神経等の神経系の疾病の原因, 病態の理解 4. 下垂体, 甲状腺, 副腎等の内分泌系の疾病の原因, 病態の理解	知識・理解の観点: 運動器系, 外皮, 神経系, 内分泌系の疾患の知識を繋げ, 全体像を説明できる。 思考・判断の観点: 習得した知識を応用し, 病態発生メカニズムについて説明できる。 関心・意欲の観点: 自主的に学習し, 各所見と疾患の定義を説明することができる。 態度の観点: 各疾患と個々の形態学的繋げる。 技能・表現の観点: 疑問点を明らかにし, 必要であれば講師に適切な質問を投げかけることができる。	○	◎	◎	○	◎
獣医病理学実習I	1 講義で学んだ各種病変についての理解を深める。 2 病理学の各種検索方法を理解して病理学的診断が下せるようになる。	知識・理解の観点: 病理学の各種検索方法を理解し, 講義で習った知識を基に病理学的診断を下すことができる。 思考・判断の観点: 各種病変の形成過程を説明できる。 関心・意欲の観点: 病理学の重要性を理解する。 態度の観点: 病理学と基礎あるいは臨床分野との関連を積極的に学ぶ。 その他の観点: 病理学的検索の結果を簡潔かつ適切に他者に説明できる。	○	◎	○	○	

獣医病理学実習Ⅱ	1 講義で学んだ各種病変についての理解を深める。 2 病理学の各種検索方法を理解して病理学的診断が下せるようになる。	知識・理解の観点:病理学の各種検索方法を理解し、講義で習った知識を基に病理学的診断を下すことができる 思考・判断の観点:各種病変の形成過程を説明できる 関心・意欲の観点:病理学の重要性を理解する 態度の観点:病理学と基礎あるいは臨床分野との関連を積極的に学ぶ その他の観点:病理学的検索の結果を簡潔かつ適切に他者に説明できる	○	◎	○	○	
家禽疾病学	1. 家禽(特に鶏)の解剖学的、生理学的及び免疫学的特徴を哺乳類と比較しながら理解する。 2. 家禽の感染症及び非感染症の原因、症状、診断法、予防法について学ぶ。 3. 感染症においては、病原体の分離及び同定方法について、類症疾病との鑑別を含めて学ぶ。 4. 鶏用ワクチンの種類と使用方法、効果判定などについて学ぶ。	知識・理解の観点:国家試験の出題項目に答えられる。 思考・判断の観点:基礎科目との関連で理解している。 関心・意欲の観点:臨床関連科目と有機的に関連づけて理解している。 態度の観点:講義に積極的に出席している。 技能・表現の観点:設問に的確に答えられる。			◎	△	○
魚病学	1. 養殖対象とされている主な魚類と甲殻類の解剖学的、生理的特徴を理解する。 2. 日本の代表的養殖魚類と甲殻類の感染症と環境性疾病について、原因、特徴、症状・病理、防除方法、問題点などを学ぶ。 3. 水産用医薬品の使用の実情や水産用ワクチンの種類と使用状況、防疫の成功例などについて学ぶ。	知識・理解の観点:疾病別の病因と病理学的特徴に関する知識を習得するとともに、変温動物である魚類の、哺乳動物とは異なる生理や免疫機構について理解する。 思考・判断の観点:試験の解答及びレポートが論理的で、しかもあらゆる観点からとらえて論じられている。 関心・意欲の観点:授業中によく質問し、レポートも多くの文献・資料をもとにまとめられている。 態度の観点:居眠り、私語もなく、授業に集中し、質問も多い。			◎	△	○
毒性学A	1. 化学物質が、動物や環境に及ぼす有害作用とその防止における獣医師の役割を教授する。 2. 化学物質の有害作用と体内動態及び毒性発現のメカニズムについて解説する。 3. 社会における毒性学、化合物の生体内動態、毒性試験の実施と評価方法、化学物質の有害作用とそのリスクアナリシスについて解説する。 4. 遺伝毒性、発がん性について教授する。	知識・理解の観点:化学物質の有害作用とその防止における獣医師の責務、化学物質の代謝と毒性発現機構、遺伝毒性と発がん性について理解し、説明できる。 思考・判断の観点:基礎科目の知識を土台として、毒性物質の特徴を理解できる。 関心・意欲の観点:身近な化学物質の毒性に関心を持ち、それらの作用について興味を持って調べることができる。 その他の観点:他の応用・臨床分野の観点から、人と動物および環境に対する化学物質の影響を考慮することができる。		◎			○
毒性学B	1. 生殖器、呼吸器・循環器、感覚器、運動器、肝臓、腎臓、血液、内分泌、神経、消化器などの個々の臓器毒性の特徴と基本的知識、関連する毒性試験法、各毒性物質の有害作用と体内動態及び毒性発現のメカニズムや環境への影響について教授する。 2. 環境中における化学物質の動態と生体及び生態に対する影響について解説する。	知識・理解の観点:生殖発生毒性、臓器毒性、環境毒性について理解し、各種毒性物質の毒性の特徴とその試験方法を説明できる。 思考・判断の観点:基礎科目の知識を土台として、毒性物質の特徴を理解できる。 関心・意欲の観点:身近な化学物質の毒性に関心を持ち、それらの作用について興味を持って調べることができる。 その他の観点:他の応用・臨床分野の観点から、人と動物および環境に対する化学物質の影響を考慮することができる。		◎			○
毒性学実習	1. 化学物質の動物及び環境への有害作用を明らかにする方法を、実験を通して学ぶ。 2. 得られた実験データを解析し、毒性を評価する方法について学ぶ。	知識・理解の観点:化学物質の生体での有害作用と動態及び毒性発現のメカニズム、環境中の化学物質の動態とその影響を理解する。 思考・判断の観点:得られた実験結果をもとに、薬の反応を多角的に考察する事ができる。 態度の観点:興味を持って実験に参加し、自ら考えながら作業を行う事ができる。 その他の観点:毒性学における網羅性の重要性を理解する。		◎			○
動物衛生学	1 食資源動物を健全に飼育し、安全な畜産物の生産性を確保するため、家畜衛生行政、飼育環境、疾病の予防・防除の重要性・必要性について講義する。 2 家畜疾病を制御する基本的な方策を、関連法規に基づき解説する。 3 さらに特有家畜、使役動物などの飼養・管理衛生について概説する。	知識・理解の観点:動物衛生に関わる家畜衛生行政、飼育環境、疾病の予防・防除法について関連法規に基づいて説明できる。 思考・判断の観点:動物衛生の関わる諸問題の対処法を考案できる。 関心・意欲の観点:最近の動物衛生の動向について自主的かつ積極的に情報収集する。 態度の観点:関心をもって聴講する。 その他の観点:専門用語を理解し、動物衛生に関する事項を適切に文章・口頭で表現できる。	○	△	○		◎
動物衛生学実習	1 動物衛生学が対象とする家畜・環境・畜産物の安全性に関する基本的技能と手技を、関連する法規の趣旨と共に習得することで、臨床獣医学・予防衛生学を総合的に理解する能力を養う。 2 一般衛生検査技術として水質検査法を基に、自然水、上水、汚水についての各種衛生検査法及び消毒に関する検査技術を習得する。 3 農場の管理衛生に必要なHACCP方式を実際に農場で見学し、そこから導かれるCCPを探るとともに、実際にHACCP方式を演習し、検証する。 4 さらに、畜舎汚水の処理法、家畜保健衛生所での業務と実地研修、生産農場の飼養管理と防疫について実地見学実習により理解する。	知識・理解の観点:家畜予防衛生に関する基本的技能と手技を関連する法規の趣旨とともに理解する。 ①環境衛生における水質検査(上水・畜舎汚水)、②農場管理衛生とHACCP、③疾病予防・防疫について説明できる 思考・判断の観点:家畜予防衛生について検査、診断、予防の観点から諸問題への対処法を考案できる。 関心・意欲の観点:自主的かつ積極的に取り組み、疑問点について質問する。 態度の観点:班員で協力して実習に参加できる。 その他の観点:実習で培った技術、現場体験および知識を具現化できる。	△	○	○	△	◎

動物感染症学A	1 産業動物と伴侶動物の細菌,リケッチア,クラミジア,原虫の感染症について学ぶ。 2 動物の感染症全般を学び、その病原体については分離同定方法,性状の特徴,感染・増殖・排泄・伝播方式を,臨床症状及び病理変化については類似疾患との相違点を含めた当該疾病の特徴的症候を,診断・鑑別方法については診断根拠を中心に,治療及び予防法については,治療薬や予防薬などの適正な投与について学ぶ。	知識・理解の観点:感染症の予防,治療,制御法に関する知識の習得 思考・判断の観点:細菌性監視伝染病の予防対策について述べるができる 関心・意欲の観点:動物の細菌感染症が一般社会にも与える影響に関心を持つ 態度の観点:授業に能動的に参加している			◎	△	○
動物感染症学B	1 動物(産業動物,伴侶動物及び野生動物など:ただし鳥類及び魚類を除く)のウイルス・プリオンの感染症について,各論的に学ぶ。 2 その病原体については分離同定方法,性状の特徴,感染・増殖・排泄・伝播方式を,臨床症状及び病理変化については類似疾患との相違点を含めた当該疾病の特徴的症候を,診断・鑑別方法については診断根拠を中心に,治療及び予防法については,治療薬や予防薬などの適正な投与について学ぶ。	知識・理解の観点:伝染病に対する予防法・治療法・診断法を総合的に理解するとともに,個々の感染症についての理解を深める。 思考・判断の観点:新規に発生した伝染病に対して,正しく診断し,予防・治療できる思考力を高める。 関心・意欲の観点:新聞等で話題になっている伝染病に対して深い関心を持ち,正しく情報収集できる意欲を持つ。 態度の観点:大学生として基本的な態度を求める。		○	◎	○	○
動物感染症総合実習	1 ウイルス,細菌,寄生虫の生態,病原機構,検出法についての専門的知識を習得させる。 2 さらに種々の感染体についての感染予防法に関する研究を推進するために必要な高度専門知識を習得する。	知識・理解の観点:ウイルス,細菌および寄生虫の感染機構の解析法,病態解析法および分子診断法を習得する。 思考・判断の観点:各解析法や診断法の意義および原理について理解する。 関心・意欲の観点:感染症の先端的研究における獣医学の役割について考えることができる。 態度の観点:各病原体の感染機構を理解し,それをもとにして人および動物における感染防止法について考えることができる。 その他の観点:自主的かつ積極的に取り組む。		○	◎		
寄生虫学 I	1 寄生現象(病害性)に関わる広汎な分類群の動物とその感染症について理解するために,その基礎概念,用語,分類,生活環,検査・診断法,治療の概要を総論として学ぶ。 2 寄生虫病の疫学的現状と,産業的並びに公衆衛生的意義を理解する。 3 原虫が関わる主要な寄生虫病について学び,その診断・治療あるいは予防がもつ意義について理解する。	知識・理解の観点:人を含めた動物感染症としての寄生虫病について理解する。 思考・判断の観点:寄生虫病の診断,治療,予防の意義について理解する。 関心・意欲の観点:動物の健康,産業ならびに公衆衛生における寄生虫病の重要性を理解する。 態度の観点:身近な感染症としての寄生虫病を理解し,その社会的対策の重要性を理解する。 その他の観点:さまざまな動物の生態学的関係を基盤に生活環を成立させる寄生虫を理解する。	○	◎	◎	◎	◎
寄生虫学 II	1 蠕虫(吸虫,条虫,線虫,鉤頭虫)が関わる主要な寄生虫病について学び,その診断・治療あるいは予防がもつ意義について理解する。 2 節足動物(ダニ類及び昆虫類)が関わる主要な寄生虫病,あるいは媒介される感染症について学び,その診断・治療,予防,ベクター対策がもつ意義について理解する。 3 食品衛生を含めた公衆衛生と関わる寄生虫病について学ぶ。	知識・理解の観点:人を含めた動物感染症としての寄生虫病について理解する。 思考・判断の観点:寄生虫病の診断,治療,予防の意義について理解する。 関心・意欲の観点:動物の健康,産業ならびに公衆衛生における寄生虫病の重要性を理解する。 態度の観点:身近な感染症としての寄生虫病を理解し,その社会的対策の重要性を理解する。 その他の観点:さまざまな動物の生態学的関係を基盤に生活環を成立させる寄生虫を理解する。	○	◎	◎	◎	◎
寄生虫学実習	1 寄生虫並びに寄生虫病の診断に関わる基本技術と知識を実践的に習得する。 2 安全で信頼性の高い診断を達成するための寄生虫検査材料の取扱い方について習得する。 3 寄生虫検査材料の観察結果について適切な表現で診断結果を伝える技術を習得する。	知識・理解の観点:寄生虫および寄生虫症の診断のために必要な観察点を理解し,また,そのための検査手技を理解できる。 思考・判断の観点:鑑別診断の考え方ができる。 関心・意欲の観点:さまざまな検査材料に適した検査・観察技術を選択できる。 態度の観点:検査に伴う安全確保ができる。 技能・表現の観点:専門用語を用いて口頭および文章で適切に寄生虫や病変を表現できる。	○	◎	◎	◎	◎
獣医公衆衛生学	1 公衆衛生活動の歴史を概括し,健康・人口・食料問題,新興・再興感染症,農薬やその他の環境汚染物質,食品の品質と安全性等の獣医公衆衛生学が特に深く関わる課題について学ぶ。 2 国民衛生の動向を紹介し,リスク・アナリシスに基づく科学的考え方を習得する。 3 WHO,FAO,OIEなどによる国際的取組みとその根拠法である国際保健規則や陸生動物衛生規約と国内法との整合性(国際的調和)について解説する。	知識・理解の観点:公衆衛生学概念について理解し,集団としての人の健康について説明できる。 思考・判断の観点:公衆衛生に関連した諸問題を解決するための手法を理解する。 関心・意欲の観点:国民の健康増進,動物福祉,地球環境保全への貢献について考えることができる。 態度の観点:人と動物の共生について理解する。 その他の観点:公衆衛生の世界的取組と日常生活における意義について関連づけて考えることができる。			◎		○
獣医公衆衛生学実習 I	1 食品の衛生管理と検査法,環境衛生に関する検査や評価法を習得する。 2 食品由来の感染性病原体の分離同定及び取扱い方に関する基礎的技術を習得する。	知識・理解の観点:食品の衛生管理と検査法を習得する。 思考・判断の観点:各検査法や評価法の意義および原理について理解する。 関心・意欲の観点:食品の安全確保における獣医師の役割について考えることができる。 態度の観点:感染性病原体の取扱いについて理解する。 その他の観点:自主的かつ積極的に取り組む。			◎		○

獣医公衆衛生学実習Ⅱ	1 公衆衛生行政の中で獣医師が担う食肉衛生検査及び環境衛生業務を知り、獣医師の活動内容を理解する。 2 産業動物の飼育段階における公衆衛生上の危害因子制御や衛生指導、病性鑑定における人獣共通感染症病原体の取扱いや予防策の実際について学ぶ。	知識・理解の観点:食肉衛生および環境衛生に関する検査法を習得する。 思考・判断の観点:各検査法や評価法の意義および原理について理解する。 関心・意欲の観点:食肉衛生および環境衛生における獣医師の活動内容について理解する。 態度の観点:人獣共通感染症病原体の取扱および予防策について理解する。 その他の観点:自主的かつ積極的に取り組む。			◎		○
食品衛生学	1 食品衛生の概念、食中毒と食品媒介性感染症について、その感染源と汚染経路について解説する。 2 食品の微生物制御と食品添加物、物理化学的危害因子と健康被害及び食品公害について学ぶ。 3 食品衛生の取組み方、一般的衛生管理とHACCPについて教授し、食の安全に関する知識と考え方を身に付ける。	知識・理解の観点:食品の安全確保、害を及ぼす要因とその作用機序について説明できる。 思考・判断の観点:食の安全を確保するための手法について理解する。 関心・意欲の観点:食品衛生行政における獣医師の貢献について考えることができる。 態度の観点:食品衛生の歴史的・社会的背景を理解し、将来の対策を考えることができる。 その他の観点:関連法規の概念およびその内容を理解する。			◎		○
環境衛生学	1 大気、水、土壌の汚染により発生した公害問題の概要と環境基本法と個別法(大気汚染防止法,水質汚濁防止法等)に基づく国の対策について解説する。 2 有害廃棄物の越境移動や水圏や大気圏の汚染の進行に取り組む国際的枠組みとしての持続可能な開発と循環型社会について学ぶ。	知識・理解の観点:環境衛生の概念について理解し、人や動物の健康にとってより良い環境の維持について説明できる。 思考・判断の観点:生活環境を維持する方法、環境問題の概要について理解する。 関心・意欲の観点:自然環境の循環・概念とその中での獣医学の位置づけ、および環境対策について考えることができる。 態度の観点:これまでの歴史と現状を理解し、化学物質や病原微生物と健康の関連について考えることができる。 その他の観点:基礎知識と必要な関連法規を理解する。	○	◎			
人獣共通感染症学Ⅰ	1 人獣共通感染症の定義、種類、社会的影響について概説する。 2 主なウイルス性人獣共通感染症の病因、ヒト集団における発生状況、ヒトにおける症状、診断法及び防疫方法について教授する。	知識・理解の観点:それぞれのウイルス性感染症の特色、発生要因について説明することができる。 思考・判断の観点:それぞれのウイルス性感染症の感染環を理解し、予防対策について説明することができる。 関心・意欲の観点:各ウイルス性感染症の症状および診断法について理解する。 態度の観点:人獣共通感染症の社会的影響、疫学的特徴と我が国および世界における現状を説明することができる。 その他の観点:人獣共通感染症を制御するための法的基盤を理解する。	○	◎			
人獣共通感染症学Ⅱ	1 細菌、真菌、原虫及び寄生虫性人獣共通感染症に関して、感染環、発生状況、症状、病原体、診断法及び予防対策について解説する。 2 それぞれの人獣共通感染症における感染環を理解し、それをもとした予防対策の実施について解説する。	知識・理解の観点:細菌性、真菌性、原虫性および寄生虫性感染症の特色、発生要因について説明することができる。 思考・判断の観点:細菌性、真菌性、原虫性および寄生虫性感染症の感染環を理解し、予防対策について説明することができる。 関心・意欲の観点:細菌性、真菌性、原虫性および寄生虫性感染症の症状および診断法について理解する。 態度の観点:人獣共通感染症の社会的影響、疫学的特徴と我が国および世界における現状を説明することができる。 その他の観点:人獣共通感染症を制御するための法的基盤を理解する。	○	◎			
獣医疫学	1 動物や人間集団における健康や疾病とそれらに関連する事象の分布や規定要因を理解しながら、集団レベルでの疾病予防対策を行う疫学の基本的な考え方を解説する。 2 疫学指標、疫学研究のデザインと手法、疫学的データの解析の基礎知識を修得する。	知識・理解の観点:集団レベルでの疾病予防対策を行う疫学の概念を理解し、疫学指標、疫学研究の手法および疫学的データ解析について説明することができる。 思考・判断の観点:疫学的な思考様式について理解する。 関心・意欲の観点:様々な研究分野における疫学的視点の導入について考えることができる。 態度の観点:常に問題意識を持ち、グループワークに積極的に参加することができる。 その他の観点:疾病の経済的評価について理解する。	○	◎			
獣医臨床栄養学	1 動物に必要な栄養素、飼料の消化、栄養素吸収の原理について学ぶとともに、主要な動物の消化器管について見識を深める。 2 吸収した栄養素を利用・代謝し、エネルギーを作り生存のために利用する原理について学ぶとともに、代謝疾病についての見識を深める。 3 血液中の栄養成分等の情報を基にした、動物の健康状態の判定や栄養管理の改善法等に結び付ける代謝プロファイルテストについて学ぶ。	知識・理解の観点: 獣医分野において重要な動物についての栄養に関わる知識を習得する。 思考・判断の観点: 人間が動物のために与えるべき栄養量の算出方法と、バランス良く栄養を給与するための飼料設計法の考え方ができる。 関心・意欲の観点: 多様な生命体それぞれの生き様、ならびに、相互の関わりあう奥深さに対する関心をもつ。 態度の観点: 専門用語を用いて口頭および文章で適切に表現できる。 その他の観点: 栄養についての深い理解が、多くの病気の予防や、治療効果の促進のために重要であることを理解する。	○	◎			◎
臨床獣医学総論	1 器官別の疾患に関する各論の内容を習得する前の、臨床獣医学の導入教育科目として本講義を位置づけ、動物の診療に関する基本的な知識と進め方、並びに技術や倫理について理解させる。 2 診断から治療、更には予後判定にいたる一連の診療行為を実際に行う上で必要な各種検査法と結果の解釈、獣医師と飼い主との立場と思考の相違、説明責任や根拠に基づく獣医療について概説する。	知識・理解の観点:伴侶動物および産業動物の臨床現場で求められる診療に関する基本的事項を理解する。 思考・判断の観点:論理的な診療の進め方を理解できる。 関心・意欲の観点:臨床の現場における技術や倫理の重要性を理解する。 態度の観点:臨床獣医師の診療においてなすべきことを考えることができる。	◎	◎	○	○	○

獣医放射線学	<p>1 獣医学領域において使用される放射線の一般的な作用, 人体に対する有害な作用, その防護について教授する。</p> <p>2 X線撮影検査を始めとする各種画像診断(X線CT, 核磁気共鳴, 核医学)の基本原則、画像の成り立ちを教授する。</p> <p>3 放射線使用における安全性管理に関する法規を教授する。</p>	<p>知識・理解の観点: 1. 放射線の種類、基本的性質、生物学的作用、放射線防護体系、関連法規について理解する。2. 放射線を利用する画像診断技術の基礎を理解する。</p> <p>思考・判断の観点: 放射線防護体系のに基づき、適切な防護法を実践できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 講義内容を自ら理解しようとし、疑問点について積極的に質問する。</p> <p>態度の観点: 講義に積極的取り組み。</p>	○			◎	
獣医臨床病理学 I	<p>1. 獣医臨床病理学は、動物の生体試料を用いて様々な検査(臨床病理学的検査)を実施し、それらの検査で得られた情報を解釈して、診断、治療、予後判定に役立てる学問である。本講義では、臨床病理学的検査の種類、原理、方法及び意義等を学び、検査結果を解釈して臨床応用する能力を身に付ける。</p> <p>2. 特に獣医臨床病理学Iでは、血液検査、血清生化学検査、骨髄検査、第一胃汁検査(反芻動物)等に焦点を当て、それらの原理、方法及び意義等を学び、動物(伴侶動物及び産業動物)において実施された検査結果を解釈して、診断、治療、予後判定に役立てる能力を身に付ける。</p>	<p>知識・理解の観点: 各検査項目について正しく説明できるとともに、異常がでる病態について解説できる。</p> <p>思考・判断の観点: 各検査項目の異常値をみたときの判断が自分でできる。</p> <p>関心・意欲の観点: 臨床病理学的検査について興味をもち、各検査について関心をもつ。</p> <p>態度の観点: 講義中の問いかけに積極的に関わるようにする。</p>		○		◎	
獣医臨床病理学 II	<p>1 獣医臨床病理学は、動物の生体試料を用いて様々な検査(臨床病理学的検査)を実施し、それらの検査で得られた情報を解釈して、診断、治療、予後判定に役立てる学問である。本講義では、臨床病理学的検査の種類、原理、方法及び意義等を学び、検査結果を解釈して臨床応用する能力を身に付ける。</p> <p>2 特に獣医臨床病理学IIでは尿検査、腎機能検査、消化器系・膵外分泌系の検査、筋肉及び骨疾患の検査、内分泌・代謝病の検査、体液及び貯留液の検査、細胞診総論及び各論等に焦点を当て、それらの原理、方法及び意義等を学び、検査結果の解釈、診断、治療、予後判定に役立てる能力を身に付ける。</p>	<p>知識・理解の観点: 各検査項目について正しく説明できるとともに、異常がでる病態について解説できる。</p> <p>思考・判断の観点: 各検査項目の異常値をみたときの判断が自分でできる。</p> <p>関心・意欲の観点: 臨床病理学的検査について興味をもち、各検査について関心をもつ。</p> <p>態度の観点: 講義中の問いかけに積極的に関わるようにする。</p>		○		◎	
獣医麻酔学	<p>1.動物の基礎生理学を修得する。</p> <p>2.鎮静や各種疾患・手術操作・薬剤に対する生理的反応を制御し、動物の安全な治療を実施する為の麻酔手法を理解する。</p> <p>3.救急・集中治療、侵襲制御法などを教授する。</p>	<p>知識・理解の観点: 基礎生理学および薬理学、ならびに生体侵襲とその反応について論理的に説明できる</p> <p>思考・判断の観点: 生体の侵襲制御において適切な生命維持方法を提示できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 生体維持に対する基礎理解および責任感を涵養する。</p> <p>態度の観点: 生命に対する真摯な姿勢を育む。</p>	◎	◎	△	◎	△
獣医手術学	<p>1 獣医学における外科的疾患に対する治療法の基礎を理解させる。</p> <p>2 消毒法、器具・機材の使用法、止血・縫合などの基本的な手術操作から各臓器又は部位別での外科的処置の特長までを解説する。</p> <p>3 この科目で習得した基礎知識を基に、臓器別又は動物種別で開講される各科目の外科治療に関する内容を理解する。</p>	<p>知識・理解の観点: 獣医手術に必要な環境・設備に関する知識を深め、標準的な各手術の目的について説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: 標準的手術に関する知識を応用し、執刀医や助手の役割の違いを理解する。</p> <p>関心・意欲の観点: 局所解剖など基礎獣医学知識について手術手技習得に必要な知識として再構築する。</p> <p>態度の観点: 動物が不利益を被ることがないように留意する。</p> <p>技能・表現の観点: 手技技術の客観的評価を行い、疑問点を明らかにする。</p>		○		◎	
獣医画像診断学 I	<p>1 獣医領域において使用される画像診断手技であるX線、超音波検査、CT、MRIについて、その基本原理を解説する。</p> <p>2 画像検査を適応するタイミングや症状、代表的な疾患の特徴的所見などについて解説する。</p> <p>3 症状や検査所見と画像所見を誘発的に結びつけるトレーニングを行い、臨床現場での診断能力を高める。</p>	<p>知識・理解の観点: 獣医療の診断に必要な画像診断機器の基本原則と特性を学び、各診断機器について実際の診断方法について修得する。</p> <p>思考・判断の観点: 他の臨床検査の情報なしに、適切な画像診断所見を描出・記載できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 臨床では必須の診断スキルであるため、実症例を含め多くの症例を学習することで、臨床獣医学全体への学習意欲が高くなる。</p> <p>態度の観点: 適切な画像所見を出した後、症状、シグナルメント、および臨床病理学的な異常と合わせて、総合的に診断する訓練ができる。</p> <p>その他の観点: 検査の必要性、メリット、コスト、リスク(保定、放射線)など診断プロセス全体の中での画像診断を俯瞰する能力を習得する。</p>				◎	
獣医画像診断学 II	<p>1 獣医領域において応用的に使用される画像診断手技である超音波検査、内視鏡検査、さらにはX線CTやMRIなどの断層撮影検査について、その基本原理を教授する。</p> <p>2 さらにそれらの検査の適応疾患、代表的な疾患の特徴的所見などについて教授する。</p>	<p>知識・理解の観点: 1. 獣医領域において利用される画像診断技術の基礎を理解する。2. 主要な疾患の代表的な画像診断所見を理解し説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: 目的に合致した適切な画像診断手技の選択について判断でき、また画像所見から疾患を考察することができる。</p> <p>関心・意欲の観点: 講義内容を自ら理解しようとし、疑問点について積極的に質問する。</p> <p>態度の観点: 講義に積極的取り組み。</p>	○			◎	

獣医繁殖学	<p>1 家畜、伴侶動物及び野生動物の生殖器官の構造・機能、性の分化、内分泌を中心とした生殖制御機構、雌雄の繁殖生理、配偶子の形成・受精・妊娠成立・妊娠維持・分娩に至るまでの過程を解説する。</p> <p>2 また、各種家畜の発情行動、人工授精適期の判定、妊娠診断技術、人工授精適期の判定について概説する。</p> <p>3 さらに、動物の発生工学、生殖工学について、技術開発の歴史、技術の内容・理論、現状について解説し、自然繁殖と人為的繁殖について解説する。</p>	<p>知識・理解の観点:動物種による違いを含め、各動物の発情周期、妊娠、分娩、および産褥の過程を理解する。</p> <p>思考・判断の観点:生命の成り立ちおよび動物の生涯における繁殖の重要性について説明できる。</p> <p>関心・意欲の観点:積極的な講義への参加が望まれる</p> <p>態度の観点:命の重要性を理解し、その不思議な生体機能について理解を深める。</p>	○				◎
獣医繁殖学実習	<p>1 動物の繁殖に関わる生理学を実習を通して体系的に経験し、代表的な動物(牛、犬)の発情周期、妊娠、分娩及び産褥の過程を理解することによりその異常についても診断する能力を身に付ける。</p> <p>2 また、動物の生殖機能を人為的に調節する技術や発生工学技術の基礎について経験することで、その内容及び動物の健康と畜産製品の安全性への影響を説明できる能力を身に付ける。</p>	<p>知識・理解の観点:繁殖障害の診断治療に必要な技術を習得する。1. 卵巣・子宮・膣の所見が説明できる。2. 卵巣のホルモン反応について議論できる。3. 臨床現場での新技術に関する知識が高まる。4. 人工授精および胚移植を含む繁殖管理技術を習得する。</p> <p>思考・判断の観点:診断を含め繁殖障害におけるホルモン治療方法の選択、発情同期化の手法から人工授精までの過程を説明できる。</p> <p>関心・意欲の観点:積極的な実習への参加が望まれる</p> <p>態度の観点:実際の動物に触れることにより、基本的技術と構造を理解する。</p>	○				◎
獣医皮膚病学	<p>1 動物の皮膚の構造と機能から、皮膚疾患の臨床徴候、検査・診断方法、治療法までを教授する。</p> <p>2 日常診療において遭遇頻度の高いアレルギー性皮膚疾患及び外耳炎、皮膚腫瘍から免疫介在性疾患まで幅広く取扱い、動物の皮膚病診療における考え方や知識を与えることを目的とする。</p> <p>3 講義は、写真を豊富に用い、各疾患の症状を理解し易くする。</p>	<p>知識・理解の観点:動物の皮膚の構造とその役割について病気を通じて理解させる。</p> <p>思考・判断の観点:皮膚疾患が皮膚にとどまる病気ではなく、全身性疾患の一症状である事を考えさせる。</p> <p>関心・意欲の観点:生体における皮膚という臓器の重要性を理解させ、興味をもたせる。</p> <p>態度の観点:講義中の問いかけに積極的に関わるようにする。</p>		○		◎	
獣医消化器病学A	<p>1 動物に発生する各種消化器系疾患を理解する上で必要不可欠な各消化器系臓器の解剖・生理機能、及び疾患時の病態生理について概説する。</p> <p>2 消化器疾患の診断において必要となる各種検査法について詳細を教授する。</p> <p>3 消化器疾患に対する内科治療の基本的な考え方、使用薬剤の薬理特性・投薬法について総説し、消化器系を構成する臓器毎に、臨床検査、画像診断、病理組織学的診断について教授する。</p> <p>4 治療法については内科的治療法に絞って講義を行う。</p>	<p>知識・理解の観点:伴侶動物の臨床現場で遭遇する代表的な消化器疾患の原因、病態生理、診断、治療について理解する。</p> <p>思考・判断の観点:様々な消化器症状を呈した動物に対する鑑別疾患を挙げ、それらを診断するための手順や検査を理論的に構築し、得られた検査結果を正しく解釈できる。</p> <p>関心・意欲の観点:臨床現場で用いる技術や検査法を理解し、症例に適應できる。</p> <p>態度の観点:臨床獣医師としての診療においてなすべきことを考えることができる。</p>	◎	○	○	◎	
獣医消化器病学B	<p>1 伴侶動物に発生する消化器疾患のうち、歯牙、口腔、咽頭、食道及び肝臓の疾患について講義する。</p> <p>2 また、小動物の消化器疾患全般に対する外科的治療アプローチについて教授する。</p> <p>3 さらに、疾患動物の周術期管理についても概説する。</p>	<p>知識・理解の観点:各消化器疾患の病態・外科的治療法・周術期の管理法について理解できている</p> <p>思考・判断の観点:各消化器疾患に対して適切な治療法を判断して周術期の治療計画をたてることができる</p> <p>関心・意欲の観点:自主的かつ積極的である</p> <p>態度の観点:自主的かつ積極的である</p> <p>その他の観点:各消化器疾患の病態・診断・治療法を理解し、適切な表現でわかりやすく説明できる</p>	◎	○	○	◎	○
獣医腎泌尿器病学	<p>1. 腎泌尿器病について臨床症状および診断方法を解説する。</p> <p>2. 腎泌尿器疾患の疾患定義と病態を解説する。</p> <p>3. 腎泌尿器疾患の内科的治療法と外科的治療法を解説する。</p>	<p>知識・理解の観点:腎泌尿器疾患について、疾病の種類、診断および治療法を理解する。</p> <p>思考・判断の観点:腎泌尿器疾患の鑑別と診断を行ない、適切な治療法を選択することが出来る。</p> <p>関心・意欲の観点:腎泌尿器疾患の診断・治療に必要な知識を身につける。</p> <p>態度の観点:自主的かつ積極的に授業に取り組む。</p> <p>その他の観点:疑問に感じたことを自主的に調べ、積極的に質問する。</p>			△	◎	○
獣医内分泌・代謝病学	<p>1 伴侶動物の内分泌疾患は多岐にわたり、特に診断方法については非常に複雑である。また、個々の内分泌疾患を理解する上で、それぞれのホルモンに関する生理学も非常に重要となる。この科目では生理学の復習を各授業において簡単に取り入れ、内分泌疾患の発生メカニズムを理解した上で、臨床徴候、診断方法及び治療法について概説することを目標とする。</p> <p>2 また、代謝病については、小動物獣医学領域では軽視されてきた感があるので、電解質異常を含め、体系的に取り扱うことで、総合的な理解ができるよう努めるようにする。</p>	<p>知識・理解の観点:内分泌疾患のメカニズム、検査および診断方法について理解し、治療法について学ぶ。</p> <p>思考・判断の観点:ホルモン検査を正しく解釈し、診断できる。</p> <p>関心・意欲の観点:内分泌疾患から動物の生理学について関心をもつ。</p> <p>態度の観点:自主的かつ積極的に取り組む。</p>		○		◎	
獣医臨床感染症学	<p>1 これまでに習得してきた微生物学的な知識を基に、特に伴侶動物の診療において問題となる各種感染症について、各病原体別にその病態、症状、診断、治療、予防に関する知識を深める。</p> <p>2 中には人獣共通感染症に含まれる疾患も存在するため、動物と接する機会が多い獣医師側の衛生管理についても概説する。</p>	<p>知識・理解の観点:伴侶動物の臨床現場で認められる各種感染症の原因と病態を理解する。</p> <p>思考・判断の観点:各種感染症における診断法、治療法、予後評価、予防法を正しく理解している。</p> <p>関心・意欲の観点:臨床の現場における各種感染症の重要性を理解する。</p> <p>態度の観点:臨床獣医師の感染症に対する向き合い方を考えることができる。</p>	△		◎	○	

獣医呼吸器・循環器病学	1 伴侶動物の呼吸器・循環器病の概論と各論からなる。概論では、呼吸器・循環器疾患の基礎的な診断・治療法に関して解説する。最新の知見についても簡単に説明する。 2 各論では各教員が、疾患別に担当し、それぞれの症状、病態、診断、治療法を解説する。特に循環器認定として多数の症例を経験している非常勤の平川は日常で遭遇した実際の症例のデータを用いた診断・治療成功例も紹介する。	知識・理解の観点: 伴侶動物の呼吸器・循環器病の病因、診断、治療法を理解し説明できる。 思考・判断の観点: 様々な呼吸器・循環器病に関して説明ができ、臨床で実際に遭遇する疾患に関して、診断と治療法を思考できる。 関心・意欲の観点: 授業中によく質問し、疾患に関する学術報告を読み、理解する。 態度の観点: 居眠り、私語もなく、授業に集中し、質問も多い。	◎				◎	
獣医神経・感覚器病学	1 画像診断の進歩に伴い獣医領域においても、脳、脊髄、末梢神経などに発生する神経疾患の重要性が増しつつある。この講義では、神経系に発生する代表的な疾患の診断と治療について教授する。 2 加えて、神経系と密接に関係する視覚や聴覚に関連した感覚器である眼球、内耳、中耳、耳道、さらにはそれぞれに付随する器官に発生する疾患についても教授する。	知識・理解の観点: 1. 神経疾患および感覚器疾患の疫学、診断および治療法の概要を理解する。2. 神経学検査および眼科学検査を実施できるようにする。 思考・判断の観点: 疾患による生じる臨床症状を判断し、適切な検査による鑑別診断とを実施できる。疾患に対する治療プログラムを作成できる。 関心・意欲の観点: 講義内容を理解するために疑問点について積極的に質問する。 態度の観点: 講義に積極的に取り組む。	○				◎	
臨床動物行動学	1 「行動治療学」について、その基本的な概念、すなわち、問題行動の定義、種類、特徴、病因、病態生理、危険因子、症状、診断方法、治療方法、フォローアップ方法などを体系的に理解し、臨床に応用する能力を培う。 2 また人と動物との絆という観点から、動物介在療法、使役犬の育成、動物と飼い主との関係についても理解させる。	知識・理解の観点: 伴侶動物の問題行動の種類、診断、治療法について理解する。 思考・判断の観点: 人と動物の絆の中で、家庭内で飼育される動物と人との関わりを動物の本能的な特性と合わせて理解する。 関心・意欲の観点: 家庭での飼育時での問題点を事例も含めて学ぶことで臨床現場における問題行動治療の重要性を理解する。 態度の観点: 獣医療が動物の病気だけを対照とするのではなく、人間の実生活との関わりを対象としていることを理解する。 その他の観点: 介在療法、使役犬など動物が人間社会への貢献とその基本的な方法について理解する。	○				○	
獣医血液病学	1 動物に発生する各種血液疾患を理解する上で必要不可欠な造血機構・止血機構、血球数算定検査及び各血球成分の増加と減少の機構とその各種病態について修得する。 2 免疫介在性血液疾患、リンパ系腫瘍、白血病と骨髄異形成症候群(MDS)の分類と病態を学び、その診断、治療、予後に関する基礎知識を修得する。	知識・理解の観点: 各種血液疾患の特徴、診断、治療に関する基本事項を修得する。 思考・判断の観点: 末梢血液像、骨髄像等に基づき、正しく鑑別診断が出来る。 関心・意欲の観点: 各疾患について興味を持って理解する。 態度の観点: 自習を心掛け、疑問点については質問をして解決する。	○	◎	○		◎	
獣医運動器病学	1 伴侶動物に関する運動器(筋骨格)の構造と機能を理解する。 2 主な運動器疾患の病因、病態、診断及び治療法について動物種差を含めて解説する。 3 骨、関節、腱、靭帯の疾患について、新しい情報を織りまぜながら解説し、運動器病に関する知識を習得させる。	知識・理解の観点: 疾患別の病因と病態、治療法に関する知識を習得する。 思考・判断の観点: 解剖学、生理学および病理学的知識に基づき病態、治療のメカニズムや問題点を指摘できる。 関心・意欲の観点: 講義内容について自主的に学習し、自分の言葉で説明することができる。 態度の観点: 自主的かつ積極的に取り組み、内容について理解を深める。 その他の観点: 専門用語を用いて口頭および文章で適切に病態、治療法を表現できる。			○		◎	
獣医臨床腫瘍学	1 伴侶動物の腫瘍性疾患に対する診断方法を教授する。 2 伴侶動物の腫瘍性疾患に対する治療方法を教授する。 3 主な腫瘍性疾患の概要を教授し、さらにその診断と治療、予後について教授する。	知識・理解の観点: 伴侶動物の腫瘍性疾患の全体像、基本的な診断・治療法の概要を理解する。2. 主な腫瘍性疾患の疾患の特徴を理解する。 思考・判断の観点: 腫瘍性疾患に対して適切な診断法・治療法を判断し、治療プログラムを作成することができる。 関心・意欲の観点: 講義内容を自ら理解しようとし、疑問点について積極的に質問する。 態度の観点: 講義に積極的取り組み。	○				◎	
野生動物医学	1 本講義では、野生動物医学の基盤となる生態学や保全学について論じる。 2 続いて、野生動物の解剖、生理、繁殖、疾病について解説する。 3 また、実用分野として、傷病鳥獣救護や野生動物保護管理に関する基礎知識を習得させるとともに、関連法規について解説する。	知識・理解の観点: 野生動物の生物学的特徴について説明できる。野生動物の保全について目的や手法について説明できる。生物多様性を説明できる。 思考・判断の観点: 人と野生動物との関わりにおいて、獣医師ができる役割について理解する。 関心・意欲の観点: 自然界におけるさまざまな動物の生息状況や人との関わりについて関心を持つことができる。	◎		○			
牛診療学 I	1 牛の診療を行う上で必要とされる基礎知識、検査法、診断法及び治療法について解説する。 2 特にこの講義では消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患及び泌尿器疾患等を中心に広く解説する。	知識・理解の観点: 牛の臨床現場で認められる疾患の中で、特に消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患および泌尿器疾患についての発生原因とそれらの病態を正しく理解している。 思考・判断の観点: 上記疾患の診断法、治療法および予後評価について正しく理解するとともに、それらの予防法についての理解も深める。 関心・意欲の観点: 牛の生産に関わる獣医師の役割を正しく理解するとともに、将来の進路選択に生かす。 態度の観点: 産業動物に携わる獣医師の重要性を十分理解している。	◎	○	○		△	◎
牛診療学 II	1 牛の診療を行う上で必要とされる基礎知識、検査法、診断法及び治療法について解説する。 2 特にこの講義では代謝性疾患、感覚器疾患、運動器疾患、中毒、乳房炎及び新生子疾患等を中心に広く解説する。	知識・理解の観点: 牛の臨床現場で認められる疾患の中で、特に代謝性疾患、感覚器疾患、運動器疾患、中毒、乳房炎および新生子疾患についての発生原因とそれらの病態を正しく理解している。 思考・判断の観点: 上記疾患の診断法、治療法および予後評価について正しく理解するとともに、それらの予防法についての理解も深める。 関心・意欲の観点: 牛の生産に関わる獣医師の役割を正しく理解するとともに、将来の進路選択に生かす。 態度の観点: 産業動物に携わる獣医師の重要性を十分理解している。	◎	○	○		△	◎

牛診療学Ⅲ	1 獣医繁殖学を学習して得た知識を基礎に、主に産業動物と伴侶動物の雌の繁殖障害の分類と診断, 器官別疾患, 不受胎, 妊娠期の異常(感染症を含む), 周産期異常の予防, 診断と治療について概説する。 2 牛における発生工学, 生殖工学について解説し, フィールドにおける応用の現状について理解させる。 3 また, 雄畜の繁殖生理及び生殖器疾病について解説し, 雄畜特有の疾病の原因, 診断, 治療法についても解説する。	知識・理解の観点: 繁殖障害の診断および治療法の選択ができる技能および知識を習得するほか、胚移植等の臨床現場における活用事例について知識を深める。 思考・判断の観点: 繁殖障害の診断方法および治療の重要性について説明できる。 関心・意欲の観点: 積極的な講義への参加が望まれる。 態度の観点: 命の重要性を理解し、その診断治療を行う獣医師の役割について理解を深める。	○					◎
馬診療学	1 国内外の馬分化と産業の歴史や現状に関する知識をとり混ぜながら, 馬臨床獣医学の基本となる種特有の疾患について, 診断と治療方法を解説する。 2 発生が極めて多い疝痛症では, 治療の選択を誤らない原因鑑別診断の重要性を理解させる。 3 競技馬の運動不耐性につながる心臓や気道の疾患では, ステージ診断に対応した治療法を教授する。 4 馬体の構造や跛行・動作と関連した運動器損傷や蹄病, 馬産に大きな経済的損害を与える不妊や流産についても理解を深める。	知識・理解の観点: ①動物種としての馬の形態・機能・行動の基本的特性を説明できる。②馬の飼養管理法を説明できる。③馬特有の疾患について診断・治療・予防法を説明できる。④経済動物・伴侶動物としての馬と人との関わりについて説明できる。 思考・判断の観点: ①馬の特性や飼育法について他の動物種との比較的思考ができる。②馬特有の疾患について類症鑑別診断ができる。③現代社会における馬の役割について議論できる。 態度の観点: 他の動物種との比較的思考に基づき, 馬の飼養管理・疾病管理, 社会的役割に新たな発想がある。 その他の観点: 馬の制御法, 診療技術の習得を求めようになる。		◎	△		◎	
豚診療学	1 豚肉の安全かつ安定的な生産を確保するための基本的な獣医学的事項を教授する。 2 豚の疾病, 生産性阻害要因, 集団的予防衛生, 農場バイオセキュリティについての知識を理解する。 3 豚肉生産から消費までの流通とコンサルテーションについて教授する。	知識・理解の観点: 出生から出荷までの生理的变化と対応する技術の概略を理解する 思考・判断の観点: 生産現場における食の安全のための方策を理解する 関心・意欲の観点: 現在と未来の豚生産, 経営, 集団的予防衛生のあり方を考える 態度の観点: 生命を養い食する者として謙虚な態度を育む その他の観点: わが国の進むべき方向性を思考し展望する	◎					◎
獣医予防管理学	1 主要な家畜の飼養管理法と様々な事故予防法の基本について学ぶ。 2 泌乳調節, 母体へのダメージ, 注意を要する乾乳期や移行期について学ぶとともに, 代謝疾病や周産期疾病の発症メカニズムについて見識を深める。 3 TMR法, また乾乳期・移行期・産褥期における管理法について学び, また子畜の死亡につながる要因と対策について見識を深める。 4 環境ストレスの影響や, 放牧等のLISA型システムでの事故, 群レベルでの予防管理について学ぶ。	知識・理解の観点: 獣医分野において重要な動物についての予防管理に関わる知識を習得する。 思考・判断の観点: 生産者や消費者にとって安心安全な方法で, いかに関動物の健康を維持するか, その重要性を理解する。 関心・意欲の観点: 周産期や離乳期などの大きな変化をもたらす時期の危険性に対する関心をもつ。 態度の観点: 専門用語を用いて口頭および文章で適切に表現できる。 その他の観点: 予防管理についての深い理解が, 多くの疾病対策, そして安心安全な畜産物の生産のために重要であることを理解する。			○			◎
獣医臨床基礎実習	1 動物の診療に関する基本的な手技と技術を修得する。 2 動物の扱い方や簡単な生体材料の採取, 並びにそれらを用いた各種臨床検査の実践に主眼を置く。	知識・理解の観点: 伴侶動物および産業動物の一般的診察法の基礎技術を修得する。 思考・判断の観点: 動物と診察者の安全確保を基本とする知識と技術を修得する。 関心・意欲の観点: 自主的かつ積極的に取り組む。 態度の観点: 常に真摯な態度で取り組む。	◎	○	○	◎	◎	
伴侶動物診断治療学実習A	1 獣医臨床基礎実習で習得した手技並びに技術をさらに高度なレベルに引き上げるため, より実践的な臨床検査法について, 得られた検査結果の解釈も含め学習する。 2 特に各種臓器(血液, 呼吸器, 循環器, 消化器, 神経系)を標的とした特殊検査について学習する。	知識・理解の観点: 伴侶動物の診療に必要な各種検査方法の原理を理解する。 思考・判断の観点: 実際に各種検査を体験することで, 各種検査の手順および得られた結果を正しく解釈できる。 関心・意欲の観点: 臨床の現場における各種検査の応用について理解する。 態度の観点: 臨床獣医師の役割を考慮することができる。	◎	◎	○	◎	△	
伴侶動物診断治療学実習B	1 伴侶動物診断治療学実習Aで修得した検査方法以外の実践的な臨床検査法(泌尿器, 骨髄, 運動器, 眼科, 組織採取に関するもの)を修得する。 2 犬及び猫の各種疾患の診断と治療について, 臨床病歴, 身体検査所見, 血液検査所見, 画像検査所見, さらに細胞診や病理学的検査所見などを含めたケーススタディを演習形式で行うことにより, 様々な疾患の診断法を総合的に習得する。 3 ケーススタディから診断された疾患の治療法について, グループディスカッション或いは総合討論形式で演習する。これにより伴侶動物の疾患に関する診断から治療のプロセスを修得する。	知識・理解の観点: 伴侶動物の診療に必要な各種検査方法とその適応を理解する。 思考・判断の観点: 実際の臨床例を題材とした課題に対して, 適切な検査法を提示できる。 関心・意欲の観点: 自主的かつ積極的に取り組む。 態度の観点: グループ内で積極的に意見を述べる。	◎	◎	○	◎	△	
伴侶動物麻酔・手術学実習 I	1.鎮静・麻酔操作及び周術期管理の実践的教育をおこなう。 2.基礎的な手術準備及び手術操作を習得すること 3.麻酔学においては, 実際の薬剤投与が生体に及ぼす影響について, 各種実習動物を用いて学び, モニタリング及び周術期管理の基礎と実際を学ぶ。 4.手術の基本に関しては, 手術練習モデルや手術ビデオを用いた訓練を行い, 手術操作における基礎的事項を習得する。	知識・理解の観点: 基礎生理学ならびに生体侵襲反応およびモニタリングの基礎理論について説明できる 思考・判断の観点: 生体の侵襲制御において基礎的な生命維持方法を実施できる。 関心・意欲の観点: 生体維持に対する基礎理解および生命に対する責任感を涵養する。 態度の観点: 生命に対する真摯な姿勢を育む。	◎	◎	△	◎	△	

伴侶動物麻酔・手術学実習Ⅱ	1.手術手技への理解を深める為に手術ビデオやシミュレーションソフト、屠体材料を用い、手術手技の教育訓練を行う。 2.実習動物を用いた手術手技の実践的な手技として、対象とする体の各部位におけるアプローチ法、各臓器の取扱い、代表的疾患の手術手技等を学ぶ。	知識・理解の観点:手術の基礎理論、手術機材の基礎的な使用方法および理論を説明できる。 思考・判断の観点:適切な手術手技および合併症について説明できる。 関心・意欲の観点:実践的な手技を教授する事で意欲的に取り組める。 態度の観点:真摯な態度で手術に望める。 その他の観点:	◎	◎	○	◎	△
産業動物診断治療学実習Ⅰ	1 牛と山羊の診断, 診療を行う場合に必要な基礎知識, 保定法, 診断法, 検査法及び治療法についての技術を習得する。 2 牛診療学講義で習得した知識を基に, 実際に動物に触れながら実習を行うことで, 知識の定着を図るとともに, 基礎的な獣医学的手技を習得する。	知識・理解の観点:産業動物に関する情報を収集・診断するための基本的な手技を実際に動物に触れながら習得する。 思考・判断の観点:牛診療学講義で習得した知識を基に, 基礎的な獣医学的手技を習得できる。 関心・意欲の観点:まず触ることから始め, 動物を検査診断できる手技を習得する。 態度の観点:次へのステップのための基本的技術を身に付ける。	○				◎
産業動物診断治療学実習Ⅱ	1 馬と豚の生体及び解剖体を使用した診断治療実習である。与えられるテーマについて, グループ毎に実習を行う。 2 跛行診断法, 肢端のレントゲン検査法, 心臓・腱鞘・関節の超音波検査法及び気道・食道・胃の内視鏡検査法等, 馬特有の疾患を診断するための画像診断法を履修させる。 3 馬の鎮静麻酔法, 喉頭手術や内視鏡手術等の汎用技術を履修させる。 4 豚においても, 診療の基本技術である採血法・投薬法・鎮静法を習得させた上で, 去勢手術や歯科処置等の汎用外科手術を履修させる。 5 豚の繁殖・産科技術についても実技を経験させる。	知識・理解の観点:①動物種としての馬・豚の形態・機能・行動の基本的特性を理解し, 制御することができる。②馬・豚の身体検査・生命兆候評価ができる。③疾病診断, 治療のための, 採血, 投薬, 注射ができる。 思考・判断の観点:①状況に応じて薬物による制御ができる。②類症鑑別に必要な臨床検査法を選択し, 実施できる。 関心・意欲の観点:積極的に動物に接触し, 馬や豚に慣れ親しむことを求める。 態度の観点:獣医療行為を行う際の人と動物の安全に配慮する。 その他の観点:飼養管理に必要な技術習得を求める。		◎	△	◎	
伴侶動物総合臨床実習	1.動物病院(動物医療センター)における実際の診療に参加し, これまでの講義や実習を通じて習得してきた伴侶動物の診療に関する基礎的な知識や技術を確認する。 2.診療を通じて, 患者との接し方や診療記録の記載方法を習得するとともに, 診断手順, 各種検査方法とその結果の解釈, 疾患の病態生理, 及び様々な治療方法に関する理解を深める。 3.外科疾患については実践的な麻酔法や手術法の原理と手順を学び, 周術期並びに術後管理についても学習する。	知識・理解の観点:各動物の疾患罹患状況および診断名を論理的に説明できる 思考・判断の観点:各診断名に対し総合的な治療指針を提示できる。 関心・意欲の観点:実際の疾患罹患動物をもちいることで, 高い意欲および関心をもって実習にのぞめる。 態度の観点:真摯かつ真面目な態度で臨床をおこなえる。	◎	◎	△	◎	△
産業動物総合臨床実習	1 大学附属牧場又は地域の農業共済組合における実際の診療に参加し, これまでの講義や実習を通して習得してきた産業動物の診療に関する基礎的な知識や技術を確認する。 2 また, 診療を通じて, 畜主との接し方や臨床記録の記載方法を習得するとともに, 診断手順, 各種検査方法とその結果の解釈, 疾患と病態生理, 及び様々な治療方法に関する理解を深める。 3 さらに外科疾患については実践的な麻酔法や手術法の原理と手順を学び, 周術期並びに術後管理についても学習する。	知識・理解の観点:実際の診療に参加し, これまでの講義や実習を通して習得した産業動物に関する診断治療に関する理解を深める。 思考・判断の観点:習得してきた産業動物の診療に関する基礎的な知識や技術を確認する。 関心・意欲の観点:診療を通じて, 畜主との接し方や疾患と病態生理及び治療方法に関する理解を深める。 態度の観点:大学附属牧場および地域の農業共済組合における実際の診療に参加する。	◎	◎	△	◎	◎
専攻演習	1. 齊一教育で得た獣医師として必要な知識と技能について, 各専修分野における能動的学習により, その定着と応用力を養成する。 2. 欧文学術論文の抄読や, 実験, 調査, 症例等の各専修に特著的なテーマについての報告や討論を行うことで, 情報の正確な理解力を養成する。 3. 関連分野についての情報, 知識を取得し, 本質を理解する訓練及びこれを的確に説明する力を養成する。	知識・理解の観点:関連分野についての最新の情報, 知識を取得し, 内容を理解する。 思考・判断の観点:習得した知識と情報を元に, その本質を熟考し, 考察する。 関心・意欲の観点:専門分野の研究に関する新しい知識を積極的に取り入れる。 態度の観点:英文の論文を読み, 理解する訓練及びこれを的確に説明できる訓練を行う。	◎	◎	◎	◎	◎
卒業論文	1. 齊一教育で得た獣医師として必要な知識と技能について, 各専修分野での自主的研究を通して, その定着と応用力を養成する。 2. 研究主題に従って, 実験及び調査の立案と実施, 並びに結果の解析と考察を行い, 方法論, 実験技術, 文献検索法, 論文のまとめ方, 発表の方法などを習得する。 3. 卒業論文のための自主的な学習機会を通して, 科学研究について実践的に学び, 課題解決能力を養成する。	知識・理解の観点:関連分野および周辺分野についての知識を有機的に理解し, 応用できる。 思考・判断の観点:実際に研究実験を行いながら, 自然科学の方法論や技術を身に付ける。 関心・意欲の観点:専門分野の研究に関する新しい技術の理解と修得を積極的に目指す。 態度の観点:「科学する」態度の習得と問題解決能力の鍛錬を目標とする。	◎	◎	◎	◎	◎
動物生命科学特別実験	1. 動物の成り立つ過程や, その構造および機能を解析する手技を学ばせる。 2. 各専門領域の最新技術のみならず学生が研究を実施する上で必要とする技術を教授する。 3. Up-to-dateな実験手技, 方法, 技術を紹介する。	知識・理解の観点:実験技術の理論を理解し, その手技を学び, 自身の研究へ活かすことができる。 関心・意欲の観点:最先端技術を理解することで, 研究および学問への意欲を持つことができる。 態度の観点:学習した技術を積極的に展開し, 自身の研究を進展させることができる。		◎		○	

病態制御学特別実験	1 応用獣医系の研究を行う上で重要な実験技術を習得する。 2 病理学・衛生学・細菌学・ウイルス学・寄生虫病学・原虫病学・免疫学に関して指導を行う。	知識・理解の観点: 応用獣医系の研究を行う上で重要な実験技術を習得する。 思考・判断の観点: 疾病のメカニズムを解明するために必要な実験技術を理解する。 関心・意欲の観点: 分子生物学的解析法や免疫学的解析法について理解する。 態度の観点: 感染性病原体の取扱や検査法について理解する。 その他の観点: 自主的かつ積極的に取り組む。		○	◎		◎	
伴侶動物臨床獣医学特別実験	1 伴侶動物臨床獣医学を専門領域とする指導教員が卒業論文のテーマに沿った実験・調査を通じて研究指導を行う。 2 各指導教員が臨床例の診療を通して、伴侶動物における臨床的な技術の指導を行う。	知識・理解の観点: 伴侶動物臨床を行なう際に必要な検査手技などを実践的に学び、修得する。 思考・判断の観点: 実際の診察の場において、ここで学んだそれぞれの検査手技を必要に応じて使い分けることができるようになる。 関心・意欲の観点: 自主的かつ積極的に取り組む 態度の観点: 自主的かつ積極的に取り組む		○			◎	
産業動物臨床獣医学特別実験	1 産業動物臨床獣医学を専門領域とする指導教員が卒業論文のテーマに沿った実験・調査を通じて研究指導を行う。 2 各指導教員が臨床例の診療を通して、産業動物における臨床的な技術の指導を行う。	知識・理解の観点: 産業動物を対象とした治療技術および先端技術について高度な知識を習得する。 思考・判断の観点: 産業動物における技術の効果および重要性を説明できる。 関心・意欲の観点: 産業動物を対象とした研究課題により、畜産が今後展開する可能性について理解できる。 態度の観点: 科学的な観点で動物の健康と畜産製品の安全性への影響を説明できる。	○				◎	
動物生命科学特別講義A	1. 齊一教育より一歩踏み込んだ最先端の基礎獣医学領域の話題を取り上げることで、専門家或いは研究者の立場から、その魅力と重要性を教授する。 2. 発生学、解剖学・生理学・生化学・薬理学に関して、最新の知見を題材として講義を行う。	知識・理解の観点: 生命科学分野の最新の知見を知る。 思考・判断の観点: 理解した内容を自身の研究、診療へ活かす。 態度の観点: 知的好奇心を持って、最新の基礎生物学研究を理解する。		◎			○	
動物生命科学特別講義B	1. 齊一教育より一歩踏み込んだ最先端の基礎獣医学領域の話題を取り上げることで、専門家或いは研究者の立場から、その魅力と重要性を教授する。 2. 基礎獣医学領域における最先端の専門的知識について、解剖学、生理学、生化学、分子生物学、薬理学、動物行動学の観点から教授する。	知識・理解の観点: 生命科学分野の最新の知見を知る。 思考・判断の観点: 理解した内容を自身の研究、診療へ活かす。 態度の観点: 知的好奇心を持って、最新の基礎生物学研究を理解する。		◎			○	
病態制御学特別講義A	1 齊一教育より一歩踏み込んだ最先端の応用獣医学を各担当教員が、専門家或いは研究者の立場からその魅力と重要性を教授する。 2 病理学・衛生学・細菌学・ウイルス学・寄生虫病学・原虫病学・免疫学に関して講義を実施する。これらの講義により、応用獣医学分野の高度獣医職業人としての基礎を幅広く学ぶことができる。	知識・理解の観点: 最先端の応用獣医学を理解し、その魅力と重要性が説明できる。 思考・判断の観点: 病原体と宿主の相互作用について理解できる。 関心・意欲の観点: 最新の基礎研究から得られた成果を基にした感染症の予防法について考えることができる。 態度の観点: 高度獣医職業人として将来活躍するために必要な知識を習得することができる。 その他の観点: 最先端の応用獣医学を幅広く学ぶことができる。				◎	○	
病態制御学特別講義B	1 「動物疾病の診断技術とその制御」をテーマとして、注目される動物疾病・事例などを取り上げて、各担当教員が教授する。 2 そのテーマに関する発生実態、病因、病態、予防などについて、齊一教育より一歩踏み込んだ最新知見・情報を取り入れ、専門性の高い知識を身につける。	知識・理解の観点: 動物疾病の診断技術とその制御について説明できる。 思考・判断の観点: 動物疾病の発生実態、病因、病態、予防について理解できる。 関心・意欲の観点: 最新の知見や情報を収集することができる。 態度の観点: 医学、生物学への応用について考えることができる。 その他の観点: 最先端の応用獣医学を幅広く学ぶことができる。				◎	○	
伴侶動物臨床獣医学特別講義A	1 伴侶動物の主要疾患である整形外科疾患、中枢神経疾患、腫瘍、寄生虫等の感染症、免疫やアレルギー等における最新の診断法や治療法等について理解する。 2 伴侶動物における獣医学医療や動物福祉の現状及び将来等について説明・チャレンジできる能力を身に付ける。	知識・理解の観点: 各種疾患の問題点と最新の知見を理解する。 思考・判断の観点: 問題点の設定とその解決法を修得する。 関心・意欲の観点: 新たな問題点を設定し、その解決法を提案することを意識する。 態度の観点: 既知の疾患以外の疾患や難治性疾患に対しても臆することなく解決する態度を修得する。	◎	◎		○	◎	△
伴侶動物臨床獣医学特別講義B	1. 動物の遺伝病について解説する。 2. 伴侶動物の感染症に関する講義を行う。 3. 伴侶動物の高度な技術を要する画像診断について解説する。 4. 伴侶動物の泌尿器系疾患、運動器系疾患、循環器系疾患、腫瘍性疾患の診断治療法と最新情報について解説する。	知識・理解の観点: 伴侶動物臨床における様々な専門領域について理解する。 思考・判断の観点: 伴侶動物分野における専門領域に特化した獣医療や動物福祉について理解する。 関心・意欲の観点: 臨床の現場におけるより高度な知識の実践について理解する。 態度の観点: 臨床獣医師の役割を多角的に捉えることができる。	○				◎	
産業動物臨床獣医学特別講義A	1 予防獣医療や獣医健康管理、動物の生殖機能を人為的に調節する技術、さらに産業動物の生産性を低下させる跛行や運動障害を呈する疾患の診断と治療技術を習得する。 2 科学的な観点で動物の健康と畜産製品の安全性への影響を説明できる能力を身に付ける。	知識・理解の観点: 動物の生殖機能を人為的に調節する技術さらに運動障害を呈する疾患の診断と治療技術について一歩深めた高度な技術に関する知識を習得する。 思考・判断の観点: 産業動物における人為的生殖機能の調節、運動障害の高度診断治療を通じて、生産現場における獣医医療の重要性を説明できる。 関心・意欲の観点: 産業動物を対象とした獣医医療への積極的な参加により畜産の重要性が理解できる。 態度の観点: 科学的な観点で動物の健康と畜産製品の安全性への影響を説明できる。	○				◎	
産業動物臨床獣医学特別講義B	1 産業動物臨床分野における専門的知識と新しい知見について、牛、馬、豚毎に教授する。 2 産業動物臨床に携わる農場、畜主とのコミュニケーション学・コンサルテーションについての専門性を深める。	知識・理解の観点: 農場、畜主とのコミュニケーション・コンサルテーションに関する知識を習得する。 思考・判断の観点: 畜産の生産現場における現状と問題解決について説明できる。 関心・意欲の観点: 産業動物を対象とした獣医医療への積極的な参加と畜産の現状が理解できる。 態度の観点: 畜産の現状を理解したうえで、畜産現場における獣医師の役割について説明できる。	○				◎	

GP項目別到達度判定方法(具体的に記述・箇条書き)			可以上で到達と判定する。	可以上で到達と判定する。	可以上で到達と判定する。	可以上で到達と判定する。	可以上で到達と判定する。
総合的GP到達度判定方法(具体的に記述・箇条書き)			1. 共同獣医学部のGP項目の基準をすべて達成していること。 2. 卒業研究の内容に関する到達目標の達成度が基準に達していること。(達成度判定基準は別表1) 3. 卒業研究の発表に関する到達目標の達成度が基準に達していること。(達成度判定基準は別表2)				

例 卒業研究の達成度判定基準

別表1

発表内容に関する到達度判定	
判定する項目	判定
1. 既往の研究を調査し、自分のテーマと関係づける。研究テーマを遂行するために必要な材料、方法を説明出来る。	H M W
2. 自らが行った実験、調査の結果から、新たに得られた知見、問題点を指摘出来る。	H M W
3. 研究結果に関して討議できる。	H M W
4. 主体性を持って実験、調査を行う。	H M W
5. その他注目すべき点	

別表2

発表技法に関する到達度判定	
判定する項目	判定
1. 資料やスライド等が適切に用意されている。	H M W
2. 発表の道筋をよく理解しており、発表の態度が堂々としている。	H M W
3. 相手に理解させようとする努力が感じられる。	H M W
4. 質問の意味を正確に把握し、的確な答えをスムーズに話すことができる。	H M W
5. その他注目すべき点	

注1)H (high):3, M (middle):2, W (weak):1 点とし、判定項目 (1) から (4) までの合計で点数評価する。

注2)その他注目すべき点も注として表記し、判定の資料とする。